

(前号から：防犯カメラと管理者)

## 危機管理のための想定テロリズム

今、各職場では、2年前の225A事件や先の265A殺傷事件などを起因とし、新幹線車内の乗客や乗務員の命を守るべく「異常時対応訓練」が徹底されている。

車内の座席シートを用いた護身術や、運輸所ではグループ通話を可能とするスマートフォンも導入された。また定例訓練では、今後搭載品なる「防護盾、耐刃ベスト、刺また」の使用方も訓練されているほどだ。いよいよ東海道新幹線も「国際テロ」を想定する段階に突入したということか？

そんな折、こんな管理者がいたらもう笑いとはすしかない。

真夏の出来事、新横浜駅の忘れ物の窓口に、お客様がお見えになった。その際の社員の接客態度がなぜか話題となり、そそのかされるようにある管理者がその一部始終をまさか防犯カメラでチェックする。しかもそのデータを個人のスマートフォンにコピーをする。そして旅客の個人情報が含まれた会社情報を、まさか意図も簡単に外部に漏洩流失させたとする。しかもデータのその後の行方は定かでない？

緊張感の欠けらもないこの行動の軽率さは、一体どのような思考に基づくものか？まったく理解不能だ。現代社会では、ハッカーによるサイバー攻撃など、情報戦がイタチごっこようになり返されている。普通の会社なら間違いなく一発退場ものだ！もし軽いノリでの強行なら、スノーデンも真っ青！まさにテロリズムだ？

前代未聞、もし、この馬鹿丸出しが事実ならば、東京オリンピックを前にJR東海の危機管理能力はゼロを宣言したも同然だ。会社の信頼は根底から揺らいた。そして安倍・葛西の「さすがのリニア事業」もこのテロリズムにはもう耐えられない。

(次号に続く)